山都町立潤徳小学校　学校だより

狭霧（さぎり）の朝

潤徳小HP
QRｺｰﾄﾞ

令和４年６月１０日（金）　第１６号
校　長　池部　聖吾智（みわとも）

水泳の授業がスタートする前に・・・心肺蘇生実技講習を実施しました！

本校HPでも昨日アップしましたが、８日（水）の放課後に、「AEDを用いた心肺蘇生法の実践」というテーマで、山都町消防署救急隊3名の方を講師としてお招きし、全職員で実習を行いました。本校は小規模校のため、職員数は少ないです。それでも、他校と同様に複数名の署員の方を派遣していただき、研修にご協力いただきました。山都町消防署には心から感謝したいと思います。

ここでは、本講習で学んだポイントを紹介しておきます。ぜひ、頭の中に入れていただき、救急救命が必要な場面に出会ったら、救命活動を行う。さらに定期的に講習会に積極的に参加する姿勢が、「自ら勇気をもって行動する」ことにつながると思います。

通報から救急車到着までに「5分」かかる

呼吸・脈が止まっていたら直ちに救急車到着まで「胸骨圧迫」実施。呼吸の有無はへそを見る（お腹が上下しているか？）人工呼吸より胸骨圧迫することが優先。心臓は胸の真ん中にあるので胸の真ん中を5～6cm沈むくらい（子どもは、その１／3）押す。※AED使用時、電気ショックを与えるときは感電事故を避けるために、傷病者に触れない。実習では、職員全員で2分間胸骨圧迫を行いましたが、結構しんどいです。2名いれば交代で2分30秒ずつの計算。

水難事故は年間1400件起こっており、その約半数が死亡事故

残念ながら、このデータから事故が発生したら助からない場合が多いことがわかる。だから、事故が起きないように「予防」が一番大切である。具体的には、すぐに気付いてあげることが必要。おぼれるときは、声を出さず静かに沈んでいくことが多い。だから、水辺の活動では、2名以上の大人がしっかり観察しておく。

潤徳抄

上の記事で「（本校）職員数は少ないのに複数名の署員を派遣・・」と述べたが、それと関連するようなことが本校でもあった▼７日の昼休み、晴れていたが前日の雨で運動場は乾いていなかったので、昼の放送で図書室で「読み聞かせ」を行うと伝えられた▼図書室に行くと、委員長の　　さんが紙芝居を読んでいた。私が行った時点ではたった１名。しかし、委員長はいつもの調子（抑揚・声の調子を微妙に変える）で読んでいた▼ここに私はプロ意識（小学生相手には少しオーバー表現かもしれないが）を感じ、以前ある芸人がテレビで「私は例え観客が１名でも全力でやる」と言っていたのを思い出した▼幸いなことに、その後図書室には、しょっちゅう私に対して「鬼ごっこしよう」とおねだり（笑）してくる　　くん他４名ほど加わり、やる気満々の委員長は結局３セットの読み聞かせを実施してしまった▼もし、私が小学時代の委員長だったら手を抜いていただろう。委員長には脱帽である。